

ECO ACTION 21
環境経営レポート

期間：2021年6月 ～ 2022年5月

幸せ化学
Clean Green Sustainable



Fukushima さくらプロジェクトで
植樹した桜「はるか」の今
<2022年4月撮影>

作成日：2022年8月31日

日本ゼトック株式会社

目 次

1.	組織の概要	3
2.	対象範囲	3
3.	環境経営方針	4
4.	環境経営目標	4
5.	環境経営計画と、環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
6.	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	9
7.	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	15
8.	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	20
9.	その他の活動	21
10.	代表者による全体の評価と見直し・指示	31

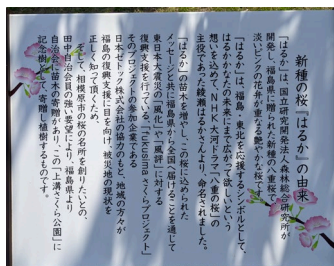
2015年6月17日、東日本大震災の復興応援として、「fukushimaさくらプロジェクト」に参画し、相模原市中央区の「上溝さくら公園」に、新種の桜「はるか」を植樹しました。当時の植樹式には、相模原市副市長や地元自治会の方、地元保育園の園児たちなども含め、100名以上の出席があり、盛大に実施されました。

「fukushima さくらプロジェクト」とは、福島で育つ新しい桜 「はるか」 を広めるプロジェクトです。「はるか」の苗木を増やし、この桜に込められたメッセージと共に福島から全国へ届けることを通じて、東日本大震災の「風化」や「風評」に対する復興応援を行っています。

あれから7年経ち、当社が植樹した「はるか」は大きく育ち、毎年4月にはきれいな花を咲かせています。表紙の写真は、2022年4月に撮影しました。



2015年6月17日当時の植樹式の様子



1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

会社の名称 日本ゼトック株式会社 (NIPPON ZETTOC CO.,LTD)
代表者 代表取締役会長兼 CEO 牧田 裕樹
代表取締役社長兼 COO 神保 貞夫

(2) 所在地

本社	東京都新宿区西新宿 1 丁目 26 番 2 号 新宿野村ビル 12F TEL : 03-5323-2020 (代表) FAX : 03-5323-3010 (代表)
相模原事業所	神奈川県相模原市緑区大山町 1 番 5 号 TEL : 042-775-8700 (代表) FAX : 042-775-7012 (代表)
大阪営業所	大阪府大阪市中央区安土町 3 丁目 2 番 4 号 JUST 本町ビル 7F TEL : 06-6262-6881 (代表) FAX : 06-6262-6601 (代表)
新生富山事業所	富山県中新川郡上市町三日市 22 番地 TEL : 076-472-0380 (代表) FAX : 076-472-0339 (代表)

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者：江尻 茂之
連絡先：TEL : 03-5323-2020 FAX : 03-5323-3010 E-mail : ejiri@zettoc.co.jp

(4) 事業活動

医薬品・医薬部外品・医療機器・化粧品・雑貨の研究開発及び製造販売

(5) 事業規模

設立 1954 年 (昭和 29 年) 2 月 12 日
資本金 9,600 万円
売上高 11,751 百万円 (81 期/2021 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日)

	従業員数 (人)	延床面積 (m ²)
本社	67	572.28
相模原事業所	367	24,093.43
大阪営業所	2	70.60
新生富山事業所	26	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む (2022 年 5 月 31 日時点)

2. 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

本社、相模原事業所、大阪営業所、新生富山事業所

(2) レポート対象期間及び発行日

レポート対象期間：2021 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日
レポート発行日：2022 年 8 月 31 日

3. 環境経営方針

環境経営方針

<ミッション>
 私たちは、人々の幸せと健やかなる未来を創造し、
 世界中に笑顔をお届けまいります。

【環境経営方針】
 当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスを踏まえ、上記の当社ミッションを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを誓います。

【環境経営方針実現のための行動指針】

- ◆環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。
- ◆環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
 - ・電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組みます
 - ・産業廃棄物の削減を中心に、廃棄物排出量削減に取り組みます
 - ・上水、井水の排水状況を管理し、放排水量削減に取り組みます
 - ・当社で使用する化学物質の管理を徹底します
- ◆当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。
- ◆ESG経営・SDGsを推進します。
- ◆環境経営方針を全従業員に周知します。
- ◆当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。

2020年8月7日 改定

日本ゼトック株式会社 代表取締役社長 神保貞夫

4. 環境経営目標 81期

事業所	項目	目標
本社	CO2 排出量	電力使用量の維持 (kWh)、CO2 排出量の維持 (t)
	廃棄物量	一般廃棄物の最終処分量削減 (kg)、一般廃棄物の再資源廃棄物量削減 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	CSR 活動	CSR 活動の実施
相模原事業所	CO2 排出量	電力使用量の現状維持と原単位削減 (kWh)、ガス使用量の現状維持と原単位削減 (m3)、ガソリン使用量の現状維持と原単位削減 (L)、軽油使用量の現状維持 (L)、CO2 排出量の現状維持と原単位削減 (t)
	廃棄物	汚泥 (充填不良、廃パルク) 量と原単位削減 (kg)、廃プラスチック類量と原単位削減 (kg)
	上水使用量	上水使用量と原単位削減 (m3)
	下水排出量	下水道排水量と原単位削減 (m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持：PRTR 制度対象物質 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の実施
	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う

以下、次頁へ

前頁続き

大阪営業所	CO2 排出量	電力使用量の維持 (kWh) 、CO2 排出量の維持 (t)
	上水使用量	上水使用量の把握 (m3)
	廃棄物量	一般廃棄物の最終処分量の削減または維持 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	製品開発	環境に配慮した製品の開発
新生富山事業所	CO2 排出量	電力使用量の削減 (kWh) 、LPG 使用量の削減 (m3) 、ガソリン使用量の削減 (L) 、CO2 排出量の削減 (t)
	廃棄物量	廃プラスチック類の量の把握 (kg)
	上水使用量	上水使用量の削減 (m3)
	下水排出量	下水使用量の削減 (m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の測定：PRTR 制度対象物質 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	CSR 活動	毎月、周辺地域のゴミ拾い活動の実施

※詳細は、「6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価」に記載

5. 環境経営計画と、環境経営計画に基づき実施した取組内容

5. 1 本社 (81 期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容
1	CO2 排出量	電力使用量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施を徹底する
		CO2 排出量の維持	使っていない電気機器の電源オフを実施する
			周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める
			NO 残業デいの徹底 (最終消灯 21:00 厳守)
2	一般廃棄物	排出量の現状把握と管理	◎
		一般ごみ・紙類の削減	使用済封筒・可能な裏紙の再利用
		機密書類溶解廃棄物の削減	印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める
		シュレッダーの削減	ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進 POP
		段ボールの削減	ゴミ削減 (eco) の意識の徹底の為の施策を実施
		古新聞の削減	据え付け紙コップ使用を最小限に留める。マイボトル、マイ水筒等を使用する
		ペットボトルの削減	仕出し弁当を開始し、お弁当箱のリユース
3	物質使用量	コピー用紙の削減	使用量の現状把握と管理と、周知の徹底
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める
			両面、集約等の機能を有効活用
			印刷した印刷物を必ず回収する
4	CSR 活動	80 期～82 期で提案・実施 3 件	自社発信の活動への参加を検討する
			野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地域における CSR 活動への参加も検討する

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

※本社では、化学物質の使用はなく、上下水量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない

5. 2 相模原事業所 (81期)

項目		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量、ガス使用量、ガソリン使用料、軽油使用料、CO2 排出量の現状維持、原単位の削減	共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理（夏季 26℃、冬季 20℃）	○
			不在時の消灯実施	◎
			空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄	◎
			コンプレッサーのエアリーク箇所の改善	△
			社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物	汚泥（充填不良・廃バルク）の削減	残バルクの低減	◎
			ロットアウトの低減・改善	○
	廃プラスチック類の削減	再資源化の検討	◎	
		不用品廃棄・削減	◎	
3	上水使用量	上水使用料の削減	効率的なバルク製造	○
			節水の実施	◎
4	排水量	下水道排水の削減	効率生産による洗浄回数の改善	○
			節水の実施	◎
5	化学物質の管理	化学物質の現状維持 (PRTR 制度対象物質)	現状の把握と管理	◎
			バルクロットアウトの低減・改善	○
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	○
7	生物多様性	生物多様性保全活動	地域の活動に参加	○
			相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミヤマサイコを育成・栽培	◎
			従業員への啓蒙	◎
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う		環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	◎
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	◎
			環境に配慮した製品仕様を検討する	◎
			SDGs に関する勉強会に参加する	◎

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 3 大阪営業所 (81期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量の維持 CO2 排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施	◎
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
2	上水使用量	上水使用量を把握する	節水に心がける	◎
3	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減または維持 機密書類溶解廃棄の削減または維持 ペットボトルの削減または維持	排出量の現状と把握	◎
			使用済み封筒等再利用徹底	△
			印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める	◎
			ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	○
4	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	○
			電子ファイル化推進	○
5	環境に配慮した製品の開発		環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	○
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	○
			環境に配慮した製品仕様を検討する	○

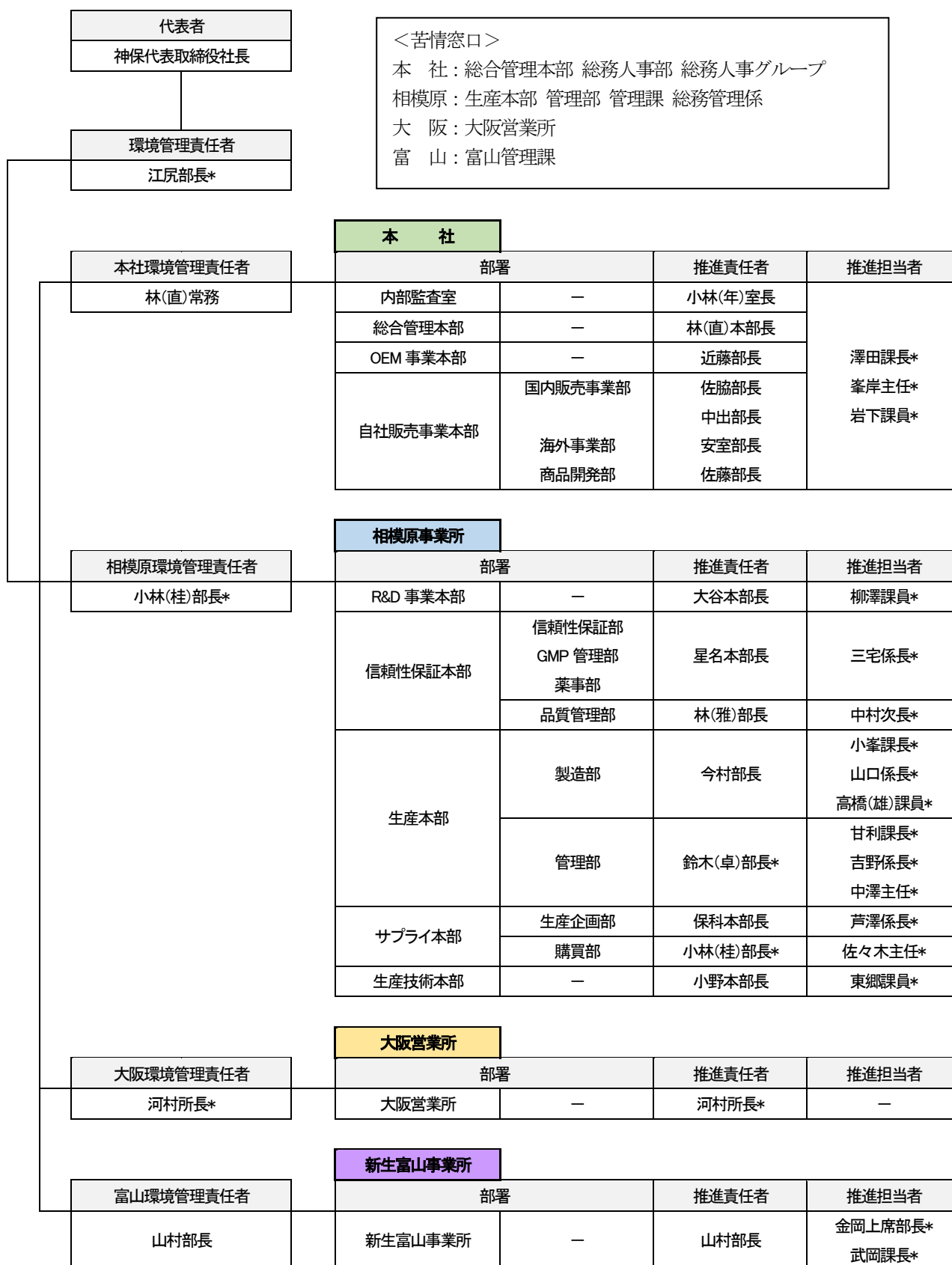
◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要
※大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない

5. 4 新生富山事業所 (81期)

項目		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量を把握する LPG 使用量を把握する ガソリン使用量の削減 CO2 排出量を把握する	不在時と休憩時間の消灯実施	◎
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
			社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物量	廃プラスチック類の量を把握する	再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測定し、記録する	○
3	上水使用量	上水使用量を把握する	節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し記録する	◎
4	排水量	下水道排水の削減	節水に心がけつつ、下水道排水量を毎月測定し記録する	◎
5	化学物質の管理	化学物質の使用量を把握する (PRTR 制度対象物質)	PRTR 制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、記録する	◎
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用する	○
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	○
7	CSR 活動	周辺地域のゴミ拾い活動	毎月、周辺地域のゴミ拾い活動をする	◎

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 5 エコアクション21 推進 組織図



* : エコアクション21 推進委員

6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

6.1 本社 (81期)

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	81期 目標値	81期 実績値	81期 結果
1	CO2排出量削減 (t)	14.85	14.85	14.85	13.49	目標達成
	(基準年比)	—	±0	±0	▲9.2%	
	電力使用量削減 (kWh)	27,980	27,980	27,980	27,230	目標達成
	(基準年比)	—	±0	±0	▲2.7%	
<p>前期より引き続き、時差出勤の実施下での測定となった。コロナ禍以前に実施していた昼食時の一斉電気消灯等は実施が困難となっているものの、不在室の消灯実施や残業ルールの徹底、社内TV・PCなどの省エネモードの意識の浸透により、電力使用量・二酸化炭素排出量共に目標達成となった。</p> <p>引き続き使用量の低減に努めていく。</p>						
2	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減 (kg)	4,241	4,029	4,156	2,775	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	▲34.6%	
	一般廃棄物の再資源廃棄物量削減 (kg)	1,112	1,056	1,090	1,172	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+5.4%	
<p>再資源化廃棄物については、目標値より増加しているものの、最終処分廃棄物については大幅な削減を達成できた。これらの結果から、廃棄物総量は削減しつつも、廃棄物における再資源化の割合は高くなっていることが分かる。</p> <p>今後も引き続き、SDGs推進の一環として、ゴミ削減の意識付け、再資源化の推進を行っていく。</p>						
3	コピー用紙使用量削減 (枚)	239,000	227,050	234,220	167,000	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	▲30.1%	
<p>前期より引き続き、印刷物を必要最小限とし、両面及び集約機能の活用を掲げることで意識づけを行った。また、在宅業務の実施により使用量が減少したこともあり、目標達成となった。</p>						
4	CSR活動の実施	—	提案3件 実施3件	提案1件 実施1件	提案2件 実施2件	目標達成
	<p>・本社のごみ分別に関する掲示をより見やすいように貼り替え</p> <p>・来客用ペットボトルをラベルレスに変更</p> <p>今期は以上の活動を行った。来期以降も積極的な活動を行ってきたい。</p>					

※CO2排出量係数：電気・0.000455t/kWh（調整後）、ガソリン・0.00232t/L

6. 2 相模原事業所 (81期)

項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	81期 目標値	81期 実績値	81期 結果
CO2排出量現状維持 (t)	2,885	2,885	2,885	3,382	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+17.2%	
CO2排出量原単位削減 (t)	2.81×10^{-5}	2.67×10^{-5}	2.75×10^{-5}	3.06×10^{-5}	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+8.9%	
電力使用量現状維持 (t)	5,006,909	5,006,909	5,006,909	6,018,643	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+20.2%	
電力使用量原単位削減 (t)	0.0487	0.0463	0.0477	0.0545	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+11.9%	
ガス使用量現状維持 (m3)	271,886	271,886	271,886	368,755	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+35.6%	
ガス使用量原単位削減 (m3)	2.64×10^{-3}	2.51×10^{-3}	2.59×10^{-3}	3.34×10^{-3}	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+26.5%	
ガソリン使用量現状維持 (L)	383	383	383	629	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+64.2%	
ガソリン使用量原単位削減 (L)	3.72×10^{-6}	3.54×10^{-6}	3.65×10^{-6}	5.69×10^{-6}	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+53.0%	
軽油使用量現状維持 (L)	1,491 (80期実績)	1,491	1,491	755	目標達成
(基準年比)	—	±0	±0	▲49.4%	
<p>81期の電気使用量は基準年78期と比較して20.2%の増加となった。81期は新棟の生産ラインが増えたことにより生産数量が増加し、電気量が増加したと考える。製品1本当たりの電気使用量に換算すると78期比は11.9%の増加となった。</p> <p>今期より太陽光発電設備を設置し10月より稼働している。81期の購入電力のみ比較すると、78期比は12.2%増加となり、8%分増加が緩和されている。製品1本あたりの購入量は78期比4.5%増加となった。</p> <p>また80期の使用量(消費電力)と比較すると、2.5%削減となった。来期は太陽光発電設備が期初より稼働しているため、購入電力の削減が期待できる。82期も節電に努める。</p> <p>81期都市ガス使用量は基準年78期と比較して35.6%の増加となった。新棟の生産ラインが増えたことにより生産数量が増え、ガスの使用量が増加したと考える。製品1本当たりのガス使用量に換算すると78期比は26.5%の増加となった。82期もガスの削減に努めて行く。</p> <p>81期のガソリン使用量は基準年78期と比較して64.2%増加した。生産数量の増加により外部倉庫への製品移動が増えたことが要因と考える。製品1本当たりの使用量に換算すると78期比は53.0%増加となった。</p> <p>軽油の使用量については、80期と比較して49.4%削減された。</p> <p>81期の二酸化炭素排出量は基準年78期と比較して17.2%の増加となった。太陽光発電設備を設置し、自家発電を行い、購入電気量の削減を試みたが、新棟の生産ラインが増えたことにより生産数量が増加し、二酸化炭素排出量を削減することはできなかった。製品1本当たりの排出量に換算すると78期比は8.9%増加となった。但し、80期の排出量と比較すると太陽光発電設備により1t(0.03%)削減となった。</p> <p>引き続き電気、ガス、ガソリン使用量の低減に努めていく。</p>					

以下、次頁へ

前頁続き

2	廃棄汚泥量削減 (kg)	660,790	627,750	647,574	702,370	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+6.3%	
	廃棄汚泥量原単位削減 (kg)	6.43×10^{-3}	5.91×10^{-3}	5.91×10^{-3}	6.36×10^{-3}	目標未達
	(基準年比)	—	▲8%	▲8%	▲1.1%	
	廃棄プラスチック量削減 (kg)	123,255	117,092	120,790	22,787	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	▲81.5%	
廃棄プラスチック量削減 (kg)	1.20×10^{-3}	1.14×10^{-3}	1.14×10^{-3}	0.20×10^{-3}	目標達成	
(基準年比)	—	▲5%	▲5%	▲83.3%		
<p>81期の汚泥排出量は78期より6.3%増加した。生産数量の増加により調剤機洗浄の際に排出される残バルク量が増えたためと考える。製品1本あたりに換算すると78期比1.1%削減となる。82期は、リサイクル業者に依頼し、セメントに再生することを計画している。</p> <p>81期の廃プラスチック類排出量は78期より81.5%減少した。81期は、8月より廃プラスチックの8割をリサイクル業者に依頼して擬木に再生したことが廃棄量の削減となった。製品1本あたりに換算すると78期比は83.3%削減となった。</p> <p>82期も継続して削減活動を実施していく。</p>						
3	上水使用量削減 (m3)	25,666	24,382	25,152	27,939	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+8.9%	
	上水使用量原単位削減 (m3)	2.50×10^{-4}	2.37×10^{-4}	2.37×10^{-4}	2.40×10^{-4}	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲5%	▲4.0%	
<p>81期は基準年78期と比較し増加となった。新棟の生産ラインが2ライン体制となり、生産数量が増加したためと考える。製品1本あたりに換算すると78期比は4.0%削減となった。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる上水使用量の低減を図る。</p>						
4	下水道排出量削減 (m3)	47,114	44,758	46,172	51,764	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+9.9%	
	下水道排出量原単位削減 (m3)	4.58×10^{-4}	4.35×10^{-4}	4.49×10^{-4}	4.52×10^{-4}	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	▲1.3%	
<p>81期は基準年78期と比較し下水道排出量は9.9%増加となった。生産数量の増加により洗浄回数が増えたことが要因と考える。製品1本あたりに換算すると78期比は1.3%削減となった。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる下水道排水量の低減を図る。</p>						
5	化学物質の管理:PRTR 制度対象物質 (kg)	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 21,255 POE : 0 NaDS : 69,919	F : 目標未達 PEO :
	(基準年比)	—	±0	±0	F : +27.3% PEO : ±0% NaDS : ▲8.9%	目標達成 NaDS : 目標達成
	<p>フッ化水素及びその水溶性塩については78期比27.3%増加となった。ドデシル硫酸ナトリウムについては78期比8.9%削減となった。フッ化水素及びその水溶性塩に関してはフッ素入り歯磨の生産量増加が要因と考える。ポリオキシエーテルは今期も使用していない。これからもPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していく。</p>					

以下、次頁へ

前頁続き

	コピー用紙使用量削減 (枚)	897,500	807,750	852,625	932,500	目標未達
	(基準年比)	—	▲10%	▲5%	+3.9%	
6	81期のコピー用紙使用量は、78期比は3.9%増加となった。但し80期より使用量37,500枚(3.9%)減少している。生産数が増えた為、78期と比較すると増加となるが、Web会議等でペーパーレス化を実施した効果により使用枚数が80期より3.9%減少したと考える。82期もペーパーレスの推進活動に努めていく。					
7	地域活動「柴胡の会」に参加 ミシマサイコの苗を育成	—	相模事業所の敷地 で絶滅危惧所 ミシマサイコの 育成・栽培、啓 発の実施	相模事業所の敷地 で絶滅危惧所 ミシマサイコの 育成・栽培、啓 発の実施	・地域活動はコ ロナの為、参加 を断念 ・相模原事業所 で栽培実施 ・フォーラムで 啓蒙活動実施	目標達成
	81期はコロナ対策のため月1回の地域活動には参加できなかったが、事業所内においては今年も種まき・育成・栽培を行い、保全活動を実施した。7月のフォーラムでは前期の地域活動や事業所内の活動報告を行い、啓蒙活動を実施した。来期は本社や富山へ活動範囲を広げていく予定だ。					
8	製品開発において環境に配慮 した施策を行う	—	80～82期で 合計3件実施	1件実施	5件実施した	目標達成
	環境に配慮した商品を今期は5件提案し、商品化した。81期はPOPをなくした製品を3件、ベジタブルインクを使用した個装箱製品1件、FSC認証マークのある紙を個箱に使用した製品1件、合計5件の製品を商品化した。今後も色々な方面から環境に配慮した製品作りを進めたいと思う。					

※CO2排出量係数：電気・0.000455t/kWh（調整後）、ガス・0.00223t/Nm³、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258 t/L

※化学物質の管理／ F：フッ素関連、POE：ポリオキシエーテル、NaDS：ドデシル硫酸ナトリウム

6.3 大阪営業所 (81期)

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	81期 目標値	81期 実績値	81期 結果
1	CO2排出量削減 (t)	2.15	2.039～2.254	2.039～2.254	1.54	目標達成
	(基準年比)	—	±5%	±5%	▲28.4%	
1	電力使用量削減 (kWh)	6,427	6,106～6,748	6,106～6,748	4,602	目標達成
	(基準年比)	—	±5%	±5%	▲28.4%	
81期活動において、電気使用量の削減を徹底した。その結果、目標を達成した。引き続き、安定的な削減に努めていく。						
2	上水使用量の把握 (m ³)	23	21.9～24.2	21.9～24.2	9	目標達成
	(基準年比)	—	±5%	±5%	▲60.9%	
節水に努めた。78期と比較すると上水使用量は大きく減少したが、コロナの影響で在宅勤務が増えたことが要因と思われる。今後も現状維持に努めていく。						

以下、次頁へ

前頁続き

3	一般廃棄物の削減 (kg)	434	412~434	412~434	119	目標達成
	(基準年比)	—	95~100%	95~100%	▲72.6%	
<p>ゴミの分別、削減に努めた結果、78期と比較すると処分量は減少した。コロナの影響で在宅勤務が増えたことも要因となっている。今後とも現状維持に努めていく。</p>						
4	コピー用紙使用量削減 (枚)	14,795	13,315	13,760	2,748	目標達成
	(基準年比)	—	▲10%	▲7%	▲81.4%	
<p>78期と比較するとコピー用紙の使用量は81.4%減少した。これは、PDF化など用紙の削減を推進した結果だと考えられる。また、在宅勤務も増え、取引先とのやり取りもデータ化することが多くなった。</p>						
5	環境に配慮した製品の開発	—	80~82期で 合計3品目実施	1品目実施	1品目実施した	目標達成
	<p>FSC認証の個箱を使用した製品を1品目開発した。</p>					

※CO2 排出量係数：電気・0.000334t/kWh（調整後）

6. 4 新生富山事業所 (81期)

	項目	80期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	81期 目標値	81期 実績値	81期 結果
1	CO2 排出量の把握 (t)	703	668~703	689	702.0	目標未達
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%	▲0.1%	
	電力使用量の把握 (kWh)	868,332	82,4915~ 868,332	850,965	855,615	目標未達
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%	▲1.5%	
	LPG 使用量の把握 (m3)	37,192	35,332~ 37,192	36,448	38,038	目標未達
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%	+2.8%	
ガソリン使用量の把握 (L)	1,106 (79期実績)	1,073	1,083	770	目標達成	
(基準年比)	—	▲3%	▲2%	▲30.4%		
<p>81期は、80期と比較して電力とガソリンは減らすことができたが電力については目標値に対して若干届かなかった。プロパンガスに関しては若干増えている未達となった。また二酸化炭素排出量はほぼ同等となり未達となった。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、電気使用量・プロパンガス・二酸化炭素排出量の削減に努めていく。</p> <p>81期のガソリン使用量は769Lで、79期比30.4%削減となり目標達成となった。エコドライブを推進してガソリン使用量の継続的な削減に努めていく。</p>						
2	廃プラスチック類の量の把握 (kg)	0	0	0	0	目標達成
	(基準年比)	—	95~100%	—	—	
<p>81期の廃プラスチック類排出量は無かった。アイテムの追加等で増える可能性もあるが、今後の排出量の推移を見守りたいと考えている。</p>						

以下、次頁へ

前頁続き

3	上水使用量の把握 (m3)	2,600	2,470~2,600	2,548	2,436	目標達成
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%	▲6.3%	
79期3月より新生富山事業所が本格的に稼働し3年目となる。今後、現状を把握しつつ、社内の節水意識の向上や対策を行い、上水使用量の低減を図る。また、基準年度と比較して約6.3%削減となっており目標達成となった。						
4	下水使用量の把握 (m3)	2,778	2,639~2,778	2,722	2,885	目標未達
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%	+3.9%	
下水排水量は基準年度比で増えている。80期に比べ生産量が増加したことが要因と思われる。						
5	化学物質使用量の把握：PRTR 制度対象物質 (kg)	59	56~59	57.8	48.4	目標達成
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%	▲18.0%	
ドデシル硫酸ナトリウムについては複数の特定の製品にしか使用していないので、急激に増減はしないと考えている。これからも PRTP 法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していく。						
6	コピー用紙使用量の把握 (枚)	85,000	82,450	83,300	97,000	目標未達
	(基準年比)	—	▲3%	▲2%	+14.1%	
81期のコピー用紙使用量は、80期と比較して12,000枚増加してしまった。これは新生富山事業所の本格稼働に伴い、規定書及び手順書の改訂を行ったこと、記録類が増加したためと考える。 今後は印刷物を必要最低限の部数に留める、両面・集約等の機能活用、ペーパーレスの推進等を行い、使用量の低減に努めたい。						
7	近隣地域のゴミ拾い活動	—	活動の開始及び 継続	毎月、周辺地域の ゴミ拾い活動 をする	4回実施	目標達成
	81期の「ゴミ拾い活動」は4回行った。季節の影響（真夏や真冬の気温、天候）により4回に留まっている。 来期は、同等の活動を年5回達成できる様目指す。					

※CO2 排出量係数：電気・0.000527t/kWh（調整後）、LPG・0.00655t/m3、ガソリン・0.00232t/L

2021年8月、エコアクション21中央事務局より、私どもの長年のエコアクション21による環境経営への取組に対して、感謝状をお送り頂きました。

2013年1月24日に認証・登録されてから、81期で9年が経ちました。また、今年の12月には、5回目の更新審査を迎えます。

これからも、エコアクション21のガイドラインに則り、全社的に活動を続けて参ります。



お送り頂いた感謝状

7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 82期

7.1 本社 (82期)

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標値 且つ来期目標値)
1	CO2排出量の維持 (t)	14.85	14.85
	(基準年比)	—	±0
	電力使用量の維持 (kWh)	27,980	27,980
	(基準年比)	—	±0
<ul style="list-style-type: none"> ・不在時と休憩時間の消灯実施を徹底する ・使っていない電気機器の電源オフを実施する ・周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める ・NO残業ダイの徹底 (最終消灯 21:00 厳守) 			
2	一般廃棄物の最終処分廃棄物量削減 (kg)	1,801	1,711
	(基準年比)	—	▲5%
	一般廃棄物の再資源廃棄物量削減 (kg)	3,353	3,185
	(基準年比)	—	▲5%
<ul style="list-style-type: none"> ・排出量の現状把握と管理 ・使用済封筒・可能な裏紙の再利用 ・印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ・ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP ・ゴミ削減 (eco)の意識の徹底の為の施策を実施 ・据え付け紙コップ使用を最小限に留める/マイボトル、マイ水筒等を使用する ・仕出し弁当を開始し、お弁当箱のリユース 			
3	コピー用紙使用量削減 (枚)	239,000	227,050
	(基準年比)	—	▲5%
	<ul style="list-style-type: none"> ・使用量の現状把握と管理、周知の徹底 ・印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ・両面、集約等の機能を有効活用 ・印刷した印刷物を必ず回収する 		
4	CSR活動の実施	—	提案3件、実施3件
	<ul style="list-style-type: none"> ・自社発信の活動への参加を検討する ・野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地区におけるCSR活動への参加も検討する 		

※CO2排出量係数：電気・0.000455t/kWh (調整後)、ガソリン・0.00232t/L

※本社では、化学物質の使用はなく、上下水量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない

※機密書類溶解廃棄は、リサイクルされるため「最終処分廃棄物」から「再資源廃棄物」に移行し、改めて基準年度 (78期) の実績を再計算し、今期目標 (82期) を再設定した

7. 2 相模原事業所 (82期)

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標値 且つ来期目標値)	
1	CO2排出量の現状維持 (t)	2,885	2,885	
	(基準年比)	—	±0%	
	CO2排出量の原単位削減 (t)	2.806×10 ⁻⁵	2.666×10 ⁻⁵	
	(基準年比)	—	▲5%	
	電力使用量の現状維持 (kWh)	5,006,909	5,006,909	
	(基準年比)	—	±0%	
	電力使用量の原単位削減 (kWh)	4.869×10 ⁻²	4.626×10 ⁻²	
	(基準年比)	—	▲5%	
	ガス使用量の現状維持 (m3)	271,886	271,886	
	(基準年比)	—	±0%	
	ガス使用量の原単位削減 (m3)	2.644×10 ⁻³	2.512×10 ⁻³	
	(基準年比)	—	▲5%	
	ガソリン使用量の現状維持 (L)	383	383	
	(基準年比)	—	±0%	
ガソリン使用量の原単位削減 (L)	3.724×10 ⁻⁶	3.538×10 ⁻⁶		
(基準年比)	—	▲5%		
軽油使用量の現状維持 (L)	1,491 (80期実績)	1,491		
(基準年比)	—	±0%		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理 (夏季26℃、冬季20℃) ・ 不在時の消灯実施 ・ 空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄 ・ コンプレッサーのエアリーク箇所改善 ・ 社有車のアイドリングストップ ・ 太陽光発電の活用 				
2	汚泥 (充填不良、廃バルク) の削減 (kg)	660,790	627,750	
	(基準年比)	—	▲5%	
	汚泥 (充填不良、廃バルク) の原単位削減 (kg)	6.426×10 ⁻³	5.912×10 ⁻³	
	(基準年比)	—	▲8%	
	廃プラスチック類の削減 (kg)	123,255	24,651	
	(基準年比)	—	▲80%	
	廃プラスチック類の原単位削減 (kg)	1.199×10 ⁻³	0.240×10 ⁻³	
	(基準年比)	—	▲80%	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残バルクの削減 (汚泥削減) ・ ロットアウトの低減・改善 (汚泥削減) ・ 再資源化の検討 (廃プラスチック削減) ・ 不用品廃棄・削減 (廃プラスチック削減) ・ 廃プラスチック類のコンパクト化 (廃プラスチック削減) ・ プラスチックのリサイクル (擬木化) の実施 (廃プラスチック削減) 			

以下、次頁へ

前頁続き

3	上水使用量の削減 (m3)	25,666	24,382
	(基準年比)	—	▲5%
	上水使用量の原単位削減 (m3)	2.496×10 ⁻⁴	2.371×10 ⁻⁴
	(基準年比)	—	▲5%
<ul style="list-style-type: none"> ・効率的なバルク製造 ・節水の実施 			
4	下水道排水の削減 (m3)	47,114	44,758
	(基準年比)	—	▲5%
	下水道排水の原単位削減 (m3)	4.582×10 ⁻⁴	4.353×10 ⁻⁴
	(基準年比)	—	▲5%
<ul style="list-style-type: none"> ・効率生産による洗浄回数の改善 ・節水の実施 			
5	化学物質の現状維持： PRTR制度対象物質 (kg)	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757
	(基準年比)	—	±0
<ul style="list-style-type: none"> ・現状の把握と管理 ・バルクロットアウトの低減・改善 			
6	コピー用紙の削減 (枚)	897,500	807,750
	(基準年比)	—	▲10%
	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ・両面・集約等の機能を活用 ・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等) 		
7	生物多様性保全活動	—	相模事業所の敷地で絶滅危惧種ミヤマサイコの育成・栽培、啓発の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に参加 ・相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミヤマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開 ・従業員への啓発 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した製品の開発を行う 		
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う	—	80～82 期で 合計 7 件実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した製品の開発を行う ・取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ・環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ・環境に配慮した製品仕様を検討する ・SDGs に関する勉強会に参加する 		

※CO2 排出量係数：電気・0.000455t/kWh (調整後)、ガス・0.00223t/Nm³、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258 t/L

※化学物質の管理／ F：フッ素関連、POE：ポリオキシエーテル、NaDS：ドデシル硫酸ナトリウム

※「廃棄物／プラスチック類」の中期目標 (今期目標) を修正した。81 期の削減が大きかったため、削減目標を「-5%」から「-80%」にした

※「製品開発における環境に配慮した施策を行う」の中期目標を修正した。80 期と 81 期で合計 6 件実施できたため、実施目標を「3 件」から「7 件」にした

7. 3 大阪営業所 (82 期)

	項目	78 期 (基準年度) 実績値	82 期 (中期目標値 且つ来期目標値)
1	CO2 排出量削減 (t)	2,147	2,039~2,254
	(基準年比)	—	±5.0%
	電力使用量削減 (kWh)	6,427	6,106~6,748
	(基準年比)	—	±5.0%
<ul style="list-style-type: none"> ・不在時と休憩時間の消灯実施 ・使っていない電気機器の電源オフ実施 ・夏季冬季のエアコン設定温度管理 			
2	上水使用量の把握 (m3)	23	21.9~24.2
	(基準年比)	—	±5.0%
<ul style="list-style-type: none"> ・節水に心がける 			
3	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減 (kg)	434	412~434
	(基準年比)	—	95~100%
	<ul style="list-style-type: none"> ・排出量の現状を把握 ・使用済み封筒等再利用徹底 ・印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ・ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底 		
4	コピー用紙使用量削減 (枚)	14,795	13,315
	(基準年比)	—	▲10%
	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ・両面・集約等の機能を活用 ・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等) ・電子ファイル化推進 		
5	環境に配慮した製品の開発	—	80~82 期で 合計 3 品目実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した製品の開発を行う ・取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ・環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ・環境に配慮した製品仕様を検討する 		

※CO2 排出量係数：電気・0.000334t/kWh (調整後)

※大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない

7. 4 新生富山事業所 (82 期)

	項目	79 又は 80 期 (基準年度) 実績値	82 期 (中期目標値 且つ来期目標値)
1	CO2 排出量の把握 (t)	703 (80 期)	668~703
	(基準年比)	—	95~100%
	電力使用量の把握 (kWh)	868,332 (80 期)	824,915~868,332
	(基準年比)	—	95~100%
	LPG 使用量の把握 (m3)	37,192 (80 期)	35,332~37,192
	(基準年比)	—	95~100%
	ガソリン使用量の削減 (L)	1,106 (79 期)	1,073
(基準年比)	—	▲3%	
<ul style="list-style-type: none"> ・不在時と休憩時間の消灯実施 ・使っていない電気機器の電源オフ実施 ・夏季冬季のエアコン設定温度管理 ・社有車のアイドリングストップ 			
2	廃プラスチック類の量の把握 (kg)	0 (80 期)	0
	(基準年比)	—	95~100%
<ul style="list-style-type: none"> ・再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測定し、記録する 			
3	上水使用量の把握 (m3)	2,600 (80 期)	2,470~2,600
	(基準年比)	—	95~100%
<ul style="list-style-type: none"> ・節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し、記録する 			
4	下水道排水量の把握 (m3)	2,778 (80 期)	2,639~2,778
	(基準年比)	—	95~100%
<ul style="list-style-type: none"> ・節水に心がけつつ、下水道排水量を毎月測定し、記録する 			
5	化学物質使用量の把握 : PRTR 制度対象物質 (kg)	59 (80 期)	56.1~59
	(基準年比)	—	95~100%
<ul style="list-style-type: none"> ・PRTR 制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、記録する 			
6	コピー用紙の削減 (枚)	85,000 (80 期)	82,450
	(基準年比)	—	▲3%
<ul style="list-style-type: none"> ・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ・両面・集約等の機能を活用 ・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等) 			
7	周辺地域のゴミ拾い活動	—	活動の継続 (4 回/年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、周辺地域のゴミ拾い活動をする 		

※CO2 排出量係数 : 電気・0.000527t/kWh (調整後)、LPG・0.00655t/m3、ガソリン・0.00232t/L

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

81期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。また、各事業所に対する、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの指導、訴訟及び苦情は有りませんでした。

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪営業所	新生富山事業所	遵守評価
省エネ法	✓	✓	✓	✓	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	✓	遵守
消防法	✓	✓	✓	✓	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	✓	—	—	—	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	—	✓	—	—	遵守
フロン排出抑制法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	—	✓	—	—	遵守
大気汚染防止法	—	✓	—	✓	遵守
水質汚濁防止法	—	✓	—	—	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法	—	✓	—	—	遵守
相模原市下水道条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法（上市町下水道条例）	—	—	—	✓	遵守
悪臭防止法	—	✓	—	✓	遵守
騒音規制法	—	—	—	✓	遵守
富山県騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等について	—	—	—	✓	遵守
相模原市条例；悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制する地域等について	—	✓	—	—	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）	—	✓	—	✓	遵守
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	—	✓	—	✓	遵守
工場立地法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市工場立地法に基づく市準則条例	—	✓	—	—	遵守
労働安全衛生法	—	✓	—	✓	遵守

9. その他の活動

9.1 チューブ製造開始



私どもが製造している主力商品は歯磨剤です。歯磨剤に使用する容器はチューブですが、私どもでは、それをチューブメーカーから全量購入してきました。

2020年から、一部チューブの内製化について検討を始め、チューブ製造設備の導入、チューブ部品の調達、チューブ製造技術の習得に努めてきました。

前期（80期）の末、それら準備が整いましたので、2021年5月19日に、チューブ製造設備の稼働式を行いました。稼働式はコロナ禍でしたので、感染防止に充分留意して行いました。

今後、一部のチューブについて内製化を行う見込みです。将来的には、環境に配慮したチューブも、主体的に開発・検討し、製造が実現できるのではないかと考えています。



チューブ製造設備の稼働式の様子



チューブ製造設備



内製化チューブ

9. 2 さがみはら SDGs パートナー活動

2021年3月、代表取締役社長より「SDGsの取り組み宣言が成されました。また、相模原事業所では、2020年11月に「さがみはらSDGsパートナー」に登録されました。

これは、相模原市とともに、SDGsの達成に向けた取組や地域課題の解決、SDGsの普及啓発に取り組む企業・団体等を「さがみはらSDGsパートナー」として登録する制度です。



<相模原市ふるさと納税に参加>



2021年6月、相模原SDGs推進室より、相模原市の「ふるさと納税」の返礼品を探しているとの連絡を受け、弊社の自社ブランド(リセプトスキン3点セットとセルエフ2点セット)を返礼品に登録しました。2021年の秋から返礼品リストに追加されています。



ふるさと納税返礼品

<さがみはら SDGs 推進自動販売機設置>



2021年9月10日(金)、「さがみはらSDGs推進自動販売機」を1台設置しました。これは、「さがみはらSDGsパートナー」である市内の企業・団体が、同じくパートナーであるコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と連携し、「誰もが気軽にSDGsに貢献できる」というコンセプトの自動販売機です。

また、通常価格の飲料も販売し、売上金の一部が市のSDGsの推進につながる事業に寄附される仕組みです。従業員らが飲料を購入することでSDGsの推進に貢献できます。



さがみはらSDGs推進自動販売機

<中学生SDGs学習>



2022年の初め、さがみはらSDGs推進室より、中学1年生がSDGsを学ぶにあたり、パートナー企業への協力依頼があり、受入可能の旨をご連絡し、以下日程にて、中学生SDGs学習を開催しました。

【日時】2022年3月18日(金) 14:00~14:30

【場所】相模原事業所 第一会議室

【講師】松田本部長



SDGs学習風景

9. 3 太陽光発電設備導入 (相模原事業所)



相模原事業所では、2021年9月～10月にかけて、屋上への太陽光発電設備の設置工事を行いました。10月に稼働を開始し、5月までの8ヶ月間の平均自家発電率は6.7%、最大自家発電率は5月で、16.2%でした。8ヶ月合計で、400,947kWh (CO2換算で182t トン相当) を発電しました。

来期は、真夏を含めた1年間稼働しますので、更なる自家発電量が期待されます。



屋上に設置した太陽光パネル



自家発電状況のモニタリングモニター

9. 4 エコアクション21研修

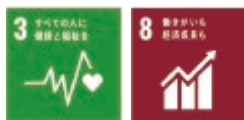


2021年4月9日(金)に相模原事業所にて行った「エコアクション21」に関する講義研修の様子は、リアルタイムで撮影を行い、その後の新入社員やキャリア入社社員が入社時に、研修用動画として見て頂いています。



エコアクション21研修の動画

9. 5 社内の安全衛生と健康経営活動 (担架取扱い訓練)



2022年1月21日(金)、相模原事業所にて、安全衛生委員会が主体となり、担架取扱い訓練を実施しました。

万能ソフト担架と軽量携帯用折りたたみ担架を実際に使用してみて、有事の際に速やかに取扱えるように訓練しました。

万能ソフト担架は、1号棟1階休憩室と1号棟3階包装事務室に、軽量携帯用折りたたみ担架は、1号棟1階休憩室と2号棟1階倉庫事務室に設置しています。

コロナ禍の中の訓練ですので、感染予防に充分留意しながら実施しました。



担架取扱い訓練の様子 (左: 万能タイプ、右: 軽量タイプ)

9.6 緊急事態への準備及び対応

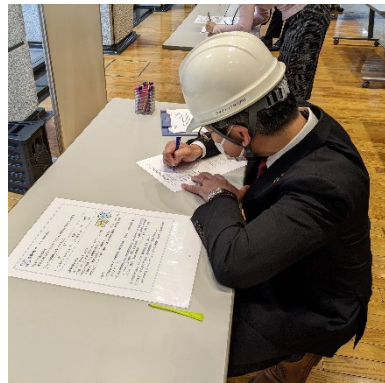


<避難訓練（本社）>

81期は、2021年10月19日（火）及び2022年3月8日（火）に、新宿野村ビルの管理会社主導で、避難訓練を行いました。今後も1年に春と秋の2回、避難訓練を行なう予定です。



本社 避難訓練の様子（2021年秋）



本社 避難訓練の様子（2022年春）

<避難訓練（相模原事業所）>

81期は、2021年8月6日（金）の夕方（日勤者対象）と夜（夜勤者対象）に、避難訓練を予定していましたが、コロナ禍のため、一斉実施が困難であったため、延期としました。1年後の2022年8月10日（水）も、避難訓練を予定していましたが、コロナ感染急拡大に伴いまして、再び延期としました。

来期は、コロナ禍が落ち着いた時期を見計らって、避難訓練を行いたいと思います。

<屋外タンク漏洩時対応訓練（相模原事業所）>

81期は、2022年1月20日（木）に、屋外タンク（グリセリタンク、ソルビットタンク）からの漏洩時対応訓練を行いました。

また、2021年12月の中間審査で、審査員より、屋外タンク貯蔵所の緊急事態対応用の備品が倉庫内に収められているものの、入口から遠くにあり、表示も不明瞭なので見やすい表示をするよう推奨されました。

今回の訓練では、この推奨事項が改善されていることを確認しました。



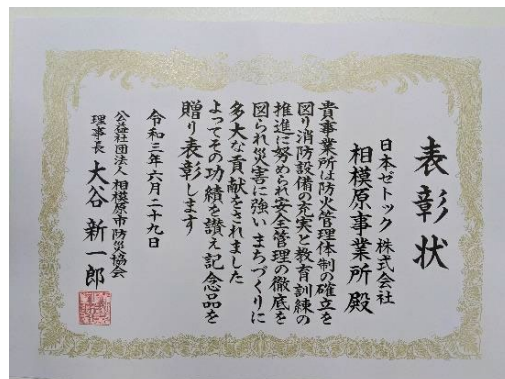
濃グリセリタンク

<相模原市防災協会優良事業所表彰（相模原事業所）>

2021年6月29日、公益社団法人相模原市防災協会より、相模原事業所が「優良事業所」として表彰されました。当社が防火管理体制を図り、消防設備の充実と教育訓練に努め、安全管理の徹底を図り災害に強いまちづくりに貢献していることが認められました。



相模原市民会館での表彰式の様子



頂いた表彰状

<避難訓練（大阪営業所）>

80期は、2022年1月18日（火）、81期に大阪営業所に新しい課員が加わりましたので、改めて防災グッズの確認、避難経路の確認を行いました。今後も1年に1回、避難訓練を行なう予定です。

<避難訓練（新生富山事業所）>

81期は、2022年12月17日（金）に、自然災害等（大雪）対応として、安否確認システムを活用した、新生富山事業所独自の運用テスト、訓練を行いました。今後も1年に1回、運用テストと避難訓練を行なう予定です。



新生富山事業所 避難訓練の様子

9. 7 社会貢献活動

<使用済み切手の回収活動 (本社、相模原事業所) >



2019年から相模原事業所では、使用済み切手の回収を行っています。前期からは本社も回収に参加しています。収集した切手は、「公益財団法人ジョイセフ」にお送りしています。ジョイセフは、女性のいのちと健康を守るために活動している国際協力NGOです。

使用済み切手は寄付金に変換され、開発途上国で推進する妊産婦と女性の命と健康を守る活動のための資金の一部として活用されます。今期は2021年5月に340gをジョイセフにお送りしました。

ジョイセフでの使用済み切手の回収が2021年に終了してしまいましたので、現在新しい回収先を現在探しています。



回収した使用済み切手

<アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動 (相模原事業所) >



2018年よりアルミ空き缶とペットボトルキャップを回収し、「NPO法人アルミ缶でボランティア」の活動に参加しています。この活動は回収したアルミ空き缶を再資源化し、そこで得た売却益を「国連WFP協会（国連世界食糧計画）」に寄付し、世界の学校給食を支援するものです。

また「NPO法人アルミ缶でボランティア」では、ペットボトルキャップの売却益を「認定NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会（JCV）」に寄付する活動も行っています。

81期は2021年12月21日（火）に、アルミ空き缶6,900個（前年度の約3倍）とペットボトルキャップ49.4kg（前年度の約2.6倍）を「NPO法人アルミ缶でボランティア」に引き渡し、ゴミの再資源化と発展途上国の子供たちへのボランティア活動に協力しました。

素材	引き渡し量	提供物
アルミ空き缶	6,900 個	1 日の給食 153.4 人分
ペットボトルキャップ	21,242 個 (49.4kg)	ワクチン 12.35 人分



収集したアルミ缶とペットボトルキャップ

<プラスチックのリサイクル (相模原事業所) >



2021年8月から、相模原では、排出されるプラスチック廃棄物のリサイクルを開始しました。神奈川県愛甲郡愛川町にある、株式会社アクト・エアにお願ひし、100%に近いマテリアルリサイクル（再利用できるような原料化を行い、又世の中に出回られる状態にして資源を半永久的に循環させるリサイクル）を行います。

プラスチック廃棄物は、焼却せず処理（破砕、溶融、圧縮成形）され、擬木にリサイクルされます（焼却処理を行わないためCO2 排出量が削減）。

また、リサイクルされた擬木製の花壇用柵プランターを購入し、79 期から当社で行っている「ミシマサイコ」の栽培に使用しています。これは、間接的な企業内での循環型リサイクルになると考えています。



擬木製の花壇の柵

<献血 (相模原事業所) >



相模原事業所では毎年「神奈川県赤十字血液センター」の献血に協力しています。81 期は 2021 年 12 月 20 日（月）、相模原事業所正面に献血車をとめてもらい献血を行いました。

コロナ禍でしたので、ソーシャルディスタンスに充分配慮して対応しました。今回は従業員 39 名の協力が得られました（献血者は 35 名）。



献血の様子

< ゴミ拾い活動 (相模原事業所、新生富山事業所) >



相模原事業所では、2016年から事業所近隣歩道でのゴミ拾い活動を行っています。81期は4回(10/26、11/19、4/21、5/24)のゴミ拾い活動を行ないました。6～9月、12～3月は新型コロナウイルスの影響で、活動を中止しました。

80期から新生富山事業所でも事業所近隣歩道でのゴミ拾い活動を始めました。81期は4回(10/14、3/16、4/7、5/24)行ないました。新型コロナウイルスの影響と豪雪の影響で4回に留まりましたが、来期は5回の実施を目標にしています。

5/24のゴミ拾いでは、いつもより落ちていたゴミが少ないように感じられました。コロナ禍の影響かもしれませんが、私達の活動を通して、地域にゴミのポイ捨てを忍ぶ風紀が醸成すれぱうれいしく思います。

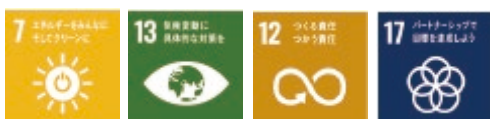


相模原事業所 ゴミ拾い活動の様子



新生富山事業所 ゴミ拾い活動の様子

< 株式会社トーモク社からのバッテリートラック納品 >



当社がお取引させて頂いている株式会社トーモク社から納品頂いている段ボールの輸送について、CO2 排出量削減のため、バッテリートラックを使用頂き、配送が2022年2月下旬より開始しました。

これにより納入時のCO2 排出量が、年間で約2.66 t 削減される見込みです。



トーモク社のバッテリートラック

<新潟大学クラウドファンディングに参加>



2022年5月、新潟大学大学院医歯学総合研究科が立ち上げたプロジェクト「摂食嚥下障害の在宅診療を支える、情報連携の仕組みづくりを新潟から！」のクラウドファンディングに協力しました。

このプロジェクトでは、在宅の摂食嚥下障害の患者さんの診療にあたって、大学からの指導や、現場からの情報連携を円滑に行えるようにするためのアプリを開発するそうです。



<愛徳基金会（中国）を通じたボランティア>



当社の海外事業部には中国営業グループが設置されています。また子会社に「泽透克（上海）商贸有限公司」があります。

それら部門・企業を通じまして、愛徳基金会主催の障害者児童、孤児を支援するチャリティーイベントに協賛しました。協賛については、Wechatメディアへ、協賛企業としてインタビュー記事が配信されました。



愛徳基金会から頂いた感謝状

<国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）への寄付>



当社の海外事業部では、ウクライナの企業とお取引をしております。2022年4月にロシアがウクライナに侵攻したことに伴い、ウクライナは苦境に陥りました。

2022年3月、僅かではありますが、ウクライナ支援を目的に、国連難民高等弁務官事務所を通じて、寄付を行いました。



9. 8 生物多様性の保全活動（絶滅危惧植物の保護活動）



79期から、絶滅危惧種であるミシマサイコ（薬草）の育成・栽培を始めました。「相模原柴胡の会」に参画し、相模原事業所の敷地内でも育成・栽培を行っています。（<https://main-townguide.ssl-lollipop.jp/saiko/index.html>）

【ミシマサイコ】

科名：セリ科、和名：三島柴胡（生薬名・柴胡）。

本州、四国、九州の日当たりの良い山野に自生する多年草。

【相模原におけるミシマサイコ】

相模原市域には古来より相模野台地といわれる広大な原野があり、そこには自生のミシマサイコ群生地「柴胡が原」が存在しました。夏には一面に黄色い花が咲き、秋には貴重な薬草（根が漢方生薬・柴胡の原料）として採取されていました。

1900年代から都市化が始まり、1950年代には都市化・工業用地化の進行で自然環境が激変してしまいました。相模原市内で最後に自生のミシマサイコが見られたのは1955年頃といわれています。



ミシマサイコの花

【相模原柴胡の会への参加】

「相模原柴胡の会」は、ミシマサイコを、生物多様性に関する法を遵守しながら育成・栽培して、啓発普及を図るとともに、相模原市の環境保全とイメージアップにも寄与することを目的とする団体です。

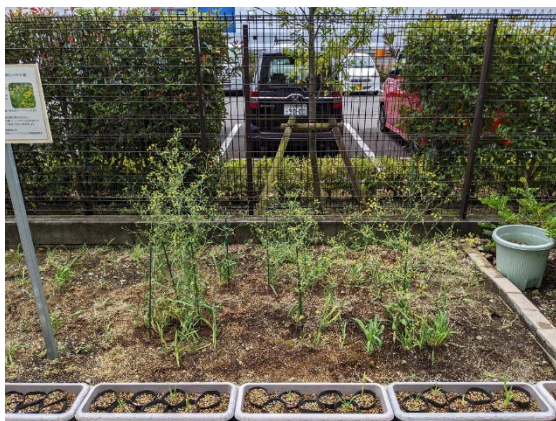
相模原事業所では有志を募り、毎月「相模原柴胡の会」に参加していましたが、今回はコロナ禍に伴い、活動は中止になってしまいました。

ミシマサイコを栽培している「相模原麻溝公園 柴胡花壇」や「県立相模原公園 柴胡が原陸橋命名碑前 下溝柴胡花壇」、「麻

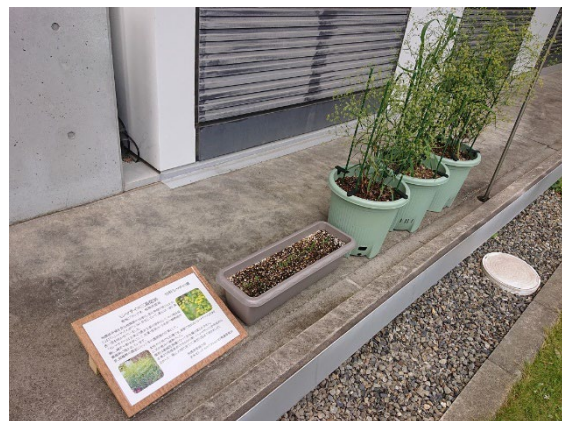
【当社相模原事業所敷地内（ミシマサイコ群生地の一つであった大山工業団地）での育成・栽培】

今期も、2021年3月に、相模原事業所でミシマサイコの種をプランターにまき、育成・栽培を開始しました。6月初旬には発芽し、夏には大きく育ちました。

夏から秋にかけて、大きく育ちましたので、11月にプランターから花壇に植え替えを行いました。2022年1月には葉は枯れましたが、根本は緑色の状態であり、春にはまた緑色の葉が生えてきます。



花壇で栽培しているミシマサイコ



植木鉢、プランターで栽培しているミシマサイコ

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

<全体の評価>

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスへの対応に迫られる1年であった。従業員に感染者や濃厚接触者は一定数発生したが、各事業所でクラスターが生じることはなく、工場を稼働し続けることができた。

また、81期の後半にはロシアによるウクライナ侵攻に伴う原油価格の高騰と、それに起因する原材料の値上げが生じ、その対応にも苦慮することになった。来期も引き続き、コロナ禍と原材料の値上げには悩まされることになるだろう。

一方で81期は、かねてより準備を進めていたチューブの自社製造を開始した。一部チューブの内製化をすることで、経費削減や効率化に繋がることを期待すると共に、将来的には、環境への配慮が成されたチューブの開発ができることを大いに期待している。

相模原事業所では、生産数量の増加に伴い、電力、ガス、ガソリンの使用量が増え、二酸化炭素排出量の増加を招いた。一方で、太陽光発電設備を10月に設置し、10月から5月までの8ヶ月間合計で、約40万kWhの自家発電が叶った。これは自給率にして7%弱に相当する。来期からは夏を含む1年を通した稼働になるため、得られる効果が楽しみだ。

廃棄物については、プラスチックのリサイクルを開始したことで、極めて大きな廃棄削減効果を得ることができた。来期は汚泥のリサイクルも検討中である。

本社では、リモートワークの影響もあり、一般廃棄物の最終処分廃棄量とコピー用紙の使用量が大きく削減された。来期以降も廃棄物を出さない、紙を使用しない習慣の継続を期待する。

大阪営業所についてもリモートワークの影響で、コピー用紙の使用料が大幅削減された。本社同様、この良い習慣を継続してもらいたい。

新生富山事業所では、新工場が本格稼働した前期と、概ね同等のエネルギー使用量であった。一方でコピー用紙使用量は、規定書や手順書の改定を行った関係で、大幅に増大してしまった。来期はペーパーレス化を進めてもらいたい。

<見直し・指示>

相模原事業所には、3号棟の効率的な稼働による、原単位でのエネルギー使用量等の削減を実現するよう指示した。

本社と大阪事業所には新しい取り組みを考えるよう指示した。新生富山事業所には、来期は本格稼働して3年目になるため、過去の実績を見ながら、エネルギー使用量の削減とコピー用紙使用量の削減に努めるよう指示した。

今期のエコアクション21活動の基準年度は78期であり、今から3年前にあたる。当時は新型コロナウイルスの蔓延もロシアによるウクライナ侵攻も想定できなかった。VUCAな市場環境であることを、今更ながらに実感する。

これら世界的な事象は、企業における働き方や、エネルギー、資材調達の見直し切っ掛けにもなるだろう。

そのためにも「SDGs経営」を通して、当社も変革し、社会への貢献と環境への負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築をしながら、それと同時に企業価値を高め、持続的競争優位の確保を進めていきたい。

環境負荷低減については、「エコアクション21推進委員会」と特定事業者としての活動を行なう「省エネルギー推進委員会」が協力し、リーダーシップをもって、より一層従業員に省エネや環境への配慮の必要性を浸透させることを期待している。

<環境経営方針及び実施体制の見直し>

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	無	現時点での環境経営方針の見直しは不要
実施体制	無	現時点での実施体制の見直しは不要だが、9月以降、組織変更があった際は、体制や委員の見直しを検討すること。

2022年 7月 1日
代表取締役社長 神保 貞夫